

第30回リトミック国際大会の報告

夏期講習会を中心として

仲 嶺 まり子

30^E CONGRES INTERNATIONAL DE LA RYTHMIQUE

Mariko NAKAMINE

はじめに

第30回リトミック国際大会は、1992年7月29日(水)から8月7日(金)までの10日間、ジュネーブ・ジャック＝ダルクローズ研究所 (Institut Jaques=Dalcroze) とリトミック教育者国際連盟 (La Fédération Internationale des Enseignants de Rythmique) の主催により開催された。今大会は、ジャック＝ダルクローズ研究所の改築を記念したことから、F. I. E. R リトミック教育者国際連盟会長・Claude Bommeli Hainarde の辞任式などが行われた。

この大会は、音楽教育学会や他の研究会のように研究発表や討議中心の運営ではなく、実技講習を中心とした内容で、ワークショップや参加各国のデモンストレーション、教師による演奏会の開催などの特色があるため、講習を通して身体運動や身体表現など『動き』に関する理解を深め、さらに、それらを領域『表現』にどのように生かしていくことが望ましいかを研究目的とし参加した。

大会参加国は、ドイツ、オーストリア、スペイン、アメリカ、フランス、イギリス、イタリア、イスラエル、ポーランド、スウェーデン、スイス・アルマニック (独語地域)、スイス・ロマンド (仏語地域)、アルゼンチン、ベルギー、ギリシャ、日本などより約260名の参加者であったが、ジャック＝ダルクローズ研究所を主会場として、市内3つの施設の体育館やリトミック教

室が準備され、円滑な運営がなされた。

講習会やワークショップの講師として、アメリカ、スイス、オーストラリア、ドイツ、フランス、イギリス、イスラエル、イタリア、カナダ、ポーランド、日本より国際的に活躍している教授達27名が担当し、それぞれに個性的な授業が展開された。今回これらの講義を受講することにより、『音楽と動き』というものを他分野と関連させながら考えられるようになったと感じており、大会プログラムや授業内容を紹介しながら考察して行きたいと思う。

講習会プログラムについて

1. 1日のスケジュール

9:00～12:00

グループ別クラス授業

14:30～16:30

ワークショップ (D及びE)

17:00から及び20:30から

ビデオ、デモンストレーション、コンサート、F. I. E. R の会議、その他

2. リトミックのグループ別クラス授業

Aグループ

リトミックの教師及びリトミック専攻の学生対象

Bグループ

グループA以外でリトミックの経験のあ

る人を対象

Cグループ

リトミックの経験のない人を対象

3. Dワークショップ(連続4日間受講)

参加者は、以下の中から1つまたは2つのワークショップを選択して受講

D1. ピアノの初級即興演奏

(ピアノの演奏が上級レベルであること)

D2. ピアノの上級即興演奏

(ピアノの演奏が上級レベルであり、即興演奏の能力があること)

D3. ピアノ以外の楽器による即興演奏

(楽器の演奏及びその楽器を持参できること)

D4. ソルフェージュ教育のダルクローズ式テクニク(Aグループのみ)

D5. ジャック=ダルクローズの考え方に基いたボディータクニクから身

体による表現方法まで

D6. 舞台芸術へのリトミックの応用

D7. コンピューターによる動きの音楽化(Aグループのみ)

D8. リトミックと演劇表現

D9. マリオネットの操作法

4. Eワークショップ

(毎日開講・受講期間1日)

E1. リトミック

E2. フォークダンス(世界各国)

E3. ジャック=ダルクローズの歌

E4. 教育実習(Aグループのみ登録必要)

5. その他, パネル展示(各国のリトミックについて写真と解説の展示)や書籍・楽譜・テープ・CDの販売, 更にジャック=ダルクローズ研究所の図書室が開館され, 楽譜・研究書・文献などの閲覧を行うことができた。

講習の形態について

まず, リトミックのグループ別クラス授業では, グループAはリトミックの専門的内容と思われたため, 幼児教育に役立てることを考慮し, グループBを受講した。このクラス授業においては, 同一講師が2回以上担当することがなく, 各講師毎のテーマによる授業が行われた。そのため, 同一講師の場合は継続性が見られたが, その他では継続性は見られなかった。

ワークショップDにおいては, 同一講師による4日間連続の授業が行われた。そのため, 4日間の授業の集大成として, 閉会式で発表する講座もあったが, 中には受講生が他のワークショップへ移動し人数が減少した講座もあった。もちろん他の講座への移動は原則的には許可されていないのだが, 登録の際に希望と異なるワークショップへ回された場合や, 授業内容が自分に不相当であると判断した場合に, 自主的に他へ移動するということが多かったように思われた。また, 前半4日間をワークショップDで



ジャック=ダルクローズ研究所外観

受講した場合、後半4日間はワークショップEを受講し、前半4日間はワークショップEを受講した場合、後半4日間はワークショップDを受講するシステムであった。

ワークショップEにおいては、E2(フォークダンス)とE3(ジャック=ダルクローズの歌)は、前半後半ともに同一講師によりいろいろなダンスや歌の指導が行われたが、E1は毎回講師が異なりしかもA~Cまでのグループの人達が自由に参加するため、各講師によるバラエティーに富んだ内容のリトミックが展開された。

次に、いくつかの印象深かった授業についてクラス別授業を中心にまとめてみることにする。

授業内容について

1) M. L. Hatt-Arnold 教授 (スイス) による授業の展開と方法について

<日 時> 7月30日 9:00~10:30

<受講クラス> B1クラス

<授業目的> Simpleなステップをベースにした体内リズムの感受

a) プリージング

1. 鼻を使い、首を前後(左右)に動かしながらプリージングを行う。
2. 身体を下に曲げ、腕の力を抜きだらりと下に落としてリラックスする。息を吸いながら身体を徐々に立てていく。

b) フレーズの指導

教授のピアノを聞きながら、自分の感じたテンポをステップする。次に、自分の好きな曲を歌いながら同様にステップする。この時に、教授はイタリア青年の歌を取り上げ、フレーズ指導の教材とする。

1. 歌を歌いながら4拍子の指揮を行う。
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
(手拍子)(手を肩)(手を横)(手を上)
2. フレーズ毎に左右の腕をチェンジして

指揮を行う。

3. ステップを加え、フレーズ毎に前後の方向を変える。

イタリアの歌



c) ソルフェージュ

1. 両手で2, 3, 4, 拍子の指揮をしながら1拍目に指定された音をラで歌う。
2. ピアノの音高に合わせて2音をラで歌う。上音は手拍子, 下音はひざ打ちを合わせて行う。
3. ピアノの音高に合わせて3音をラで歌う。上音は手拍子, 中音は無動作, 下音はひざ打ちを合わせて行う。

d) 手拍子と動き

1. ピアノに合わせて(♪・♪♪・♪)に手拍子を変化させる。
2. ピアノを聞きながら、あまり移動をせずに、身体全体を使い手拍子と身体の表現を行う。特に、手拍子は感情をこめ自在に腕を動かす。この場合、手拍子が感情移入に大変役立っていた。

e) Simpleなステップ

1. ピアノに合わせてステップを行う。
Tempo primo (音楽を感じながら美しくSimpleにステップ)
Fast and Small (駆け足にならないように)
Slowly (身体は、No Expressionでつま先をすべらせ、静かにバイオリンの弓を引くようにステップする)

f) イメージトレーニング

ピアノを聞きながら、自分の感じたままにステップする。止まったり、あるいは激

しく動いたりしながら、他ともコミュニケーションを取り合う。また、Simple なステップをベースにして、速さを合わせるのではなく、身体内でのリズムを感じながら感情移入を行い、更に目も表情・表現として同化させていく。

d) 感想

講習会初日の授業ということもあり、大変丁寧な指導であった。特に、ブリージングや Simple なステップは集中力を高め、自身の感じたままのリズムを自然に表現することが出来た。



ミラー表現の授業風景

2) Sandra Nash 教授(オーストラリア)による授業の展開と方法について No. 1

<日 時> 8月1日 10:40~12:00

<受講クラス> B 1 クラス

<授業目的> 2拍子と3拍子における動きの対比

a) グループ表現

1. 指定された人数のグループで、教授が黒板に描いた図形を作る。できるだけ言葉を使わず、目や身体でコミュニケーションを取りながら作っていく。

b) ミラー表現 (ピアノ使用)

1. ステップの途中、“Two”という合図で2人組になる。ピアノを聞きながら自由に表現しあう。
2. 2人で向かい合い、AとBで6拍交替で正確にコピーをしあう。“ツター”などの声も自由に使い行う。
3. 前項の6拍を3拍と3拍の2フレーズに分け、2つの動きにする。AとBで交互に正確にコピーしあう。

c) 自由表現 (コンガ使用)

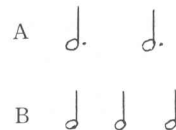
1. Aは2拍子、Bは3拍子でそれぞれ自由に表現する。フレーズのはじめに軽く

アクセントをつけて、目や声を使いコミュニケーションを図りながら行う。教授の指示により拍子を交替する。



d) リズムステップ (ピアノ使用)

1. BをステップしながらAを手拍子
2. AをステップしながらBを手拍子



e) ソルフェージュ



1. 音名(ドレミ)で上記のスケールを歌い最後に主音を歌う。
2. 数字(英語)で同様に歌う。

3. 前項 d) の A のリズムで歌い、合図で B のリズムにチェンジする。

f) 歌を歌いながらリズム表現

1. Sammy's Bath (B. Britten 作曲) を歌いながら、メロディーを手拍子する。
2. 1 拍目のみ手拍子する。
3. メロディーをステップする。
4. 拍を手拍子しながら、メロディーをステップする。

Sammy's Bath

The ket-tles — are sing-ing like mid-summer larks, The
fi — re is fling-ing a show-er of sparks, The
child-ren run fly — ing to fetch what they're
bid-den for wash-ing and dry-ing the sweep boy — they're hidden

g) 感想

はじめにミラー表現を行ったことにより、相手の動きを捉えるためにはブリージングに集中していなければならないということを理解することが出来た。

また、最後に歌を歌いながらリズムステップを行うことにより心理的に解放され、学習が総合的に行われたことを認識した。

3) Sandra Nash 教授(オーストラリア)による授業の展開と方法について No. 2

<日 時> 8月4日 9:00~10:30

<受講クラス> B1クラス

<授業目的> ブリージングや模倣表現、あるいは意思表示やリラクスの体験

a) 自由歩行

1. つま先・かかと・X脚型・O脚型・ナチュラルのいろいろな方法で自由に歩く。

b) ブリージング

1. 両手を絡み合わせてブリーズ・インしながらゆっくり上に上げる。次ぎに、歯の間から少しずつブリーズ・アウトしながら両手を大きなツリローのように広げ徐々に下げていく。
2. 前項のブリーズ・アウトの時に、鳥の鳴き声の真似など声を入れて行う。
3. 直角に屈み両手を前方に伸ばす。手を絡み合わせてぐっと力を入れて伸ばしたら、一気に力と息を抜き、身体も手もだらりと下に落としぶらんぶらんの状態になる。

c) ブリージング (2人組)

1. Aがダイレクトに背中に息を入れる。Bは後ろから腰の上に手を置いてブリージングの状態を確認する。
2. Aは猫のような格好でブリージングを行う。Bが軽く Touch した所をAは猫のような Push 動作をしながらブリージングを行う。BはAの様子を観察しながら次々に Touch の場所を変えて行く。

d) 模倣表現 (2人組)

1. 目や息などを呼応させ、後ろの人は前の人の方の動きの模倣をする。(自由な動き)
2. 前項を、走る・歩くのみの動作で行う。その際に正確な Reaction が要求され、その困難さと大切さを認識した。

e) 模倣表現 (リーダー対集団)

1. リーダーの動きをその他全員が追いかけてながら模倣する。リーダーは身体だけでなく、目や顔で意思表示を行う。
2. リーダーは最後にターンをしてポーズを決め、次のリーダーに向かって何らかの合図を送る。その他の人達は、常にリーダーからの合図に応えられるようリーダーの動きに集中していなければならない。

f) 拍を感じる

1. ピアノで示された拍子の人数になって拍をステップする。

$$\frac{3}{4} \cdot \frac{6}{8} \cdot \frac{4}{4} \cdot \frac{2}{4} \cdot \frac{3}{8}$$

g) 感想

動きの指導がブリージングを基礎とした感覚的なものであるにもかかわらず、その指導内容全体は機能的に構成されており、授業内容の構築の確かさに感嘆した。

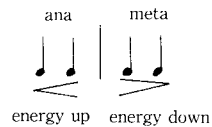
4) Lisa Parker 教授(アメリカ)による授業の展開と方法について

<日 時> 8月2日 10:40~12:00

<受講クラス> B1クラス

<授業目的> 補足リズムとクルーシス、アナクルーシスの体験

- a) 下記のリズムを使って次のような動作を行う。



1. 補足リズムを Finger Clap する。
2. 3小節めの4分休符の部分のみアクセントをつけて手拍子する。
3. 手や腕を使って補足リズムの表現を行う。1小節目と2小節目の休符では静かな動作を行う。例えば、幽霊のように力を抜いて片手先を変化させたりする。3小節目の休符部分では両手で驚いたような動作を行い、4小節目の休符部分では静かな動きに戻る。
4. 上記のリズムをタンブリンを使って4小節のクレッシェンドの音符打ちを行う。前に前に押し出すように打つ。

5. 1小節目と2小節目をタンブリンでエコーのように打つ。
6. 2人組でリズムと補足リズムに分かれ、タンブリンを打つ。リズムの人は動きをつけて前や後ろに身体を引いたり、あるいはジャンプしたりしてリズムを盛り上げ、補足リズムの人はリズムの人に共鳴した動きを同一線上で入れていく。

b) クルーシスとアナクルーシス

1. 教授がテニス・ボール投げ・ボーリングの動作をする。生徒は、教授がボールを投げた時、タンブリンで拍(クルーシス)を打つ。
2. 教授がボール投げの動作に入っ時、生徒はタンブリンをくすぐり続ける(アナクルーシス)。教授がボールを投げた時、タンブリンで拍(クルーシス)を打つ。
3. ピアノに合わせて指揮し、ブレスでアナクルーシスを感じる。
4. ピアノに合わせての動きの上行(energy up)によりアナクルーシスを感じ、動きの下行(energy down)によりメタクルーシスを感じる。

c) 2つのグループによるリズム打ちと輪唱



d) 感想

タンブリンを使ったリズムと補足リズム

のリズム打ちは、集中力と心地よい緊張感を感じながら動くことができた。また、スポーツの動作を取り入れることにより、楽しくクルーシスとアナクルーシスを学ぶことができ、卓越した指導力を感じた。



タンブリンによるリズムと補足リズムの授業風景

5) その他の授業について

これらの他に、多くのすばらしい授業が行われた。特に、ブリージングや自由な歩行による体内リズムの感受からの導入は多くの授業に共通して行われていた。また、壁に向かって感情移入をしながら進んだり、ピアノを使用せず音声のみの表現や合気道のような指導も行われた。

前述の授業内容でも分かるように、「チューインガムのように両手を動かして」や「マグネットのように」など、どの授業においても動きに対して適切なアドバイスがなされていた。

まとめ

今大会の講習会を受講することにより、ブリージングやコミュニケーションを基礎とした動きや、緊張と弛緩やリラックスを経験することにより、生命の大切さという人間教育を実感することができた。

現在、日本の幼児教育においてリトミックは、リズム運動を中心に模倣表現やリズム遊び・即時反応などの指導が行われる傾向にあると考えられる。しかし、更に保育における領域『表現』

を考える時、日常生活における個々の表現の受け止め、環境から発せられる様々な生命エネルギーなどと言ったようなことにもっと価値を見出すことが大切なのではないだろうか。

そのため、私たちがこれから保育者を養成するにあたって、子どもや多くの生命を慈しむことの出来る保育者を養成することが必要なのではないだろうか。それ故、これらのことを少しでも多くの学生に『動き』を通して体験させることを今後の課題にしたいと考えるのである。

最後に、今回の講習では著作権の関係上ビデオやテープ録音が禁止されていたため、動きながらの記録には不備が多く、参加者同志の協力によりようやく授業内容のまとめを行うことができた。これらの方々のご協力と、今大会参加のお世話をして下さいました国立音楽大学の馬淵明彦先生、白梅学園短期大学の福嶋省吾先生に深謝致します。

大会参加証明書



INSTITUT JAQUES-DALCROZE GENÈVE
Rue de la Terrasse 44 - 1207 Genève - Téléphone (022) 736 82 50 - CCP 12-993-8
Case postale 208 - 1211 Genève 6
SUBVENTIONNÉ PAR L'ÉTAT DE GENÈVE

ATTESTATION DE PARTICIPATION

M./Mme. NAKAHANE... Maiko

originaire de : ... Japon

a participé au 30e Congrès International de la Rythmique, à l'Institut Jaques-Dalcroze (Genève, Suisse), du 29 JUILLET AU 7 AOUT 1992

ACTIVITES :

- Cours de Rythmique, Solfège, Improvisation (24h)
- Travaux pratiques en atelier (16h)
- Conférences, Films, Démonstrations, Spectacles de Rythmique (environ 20h)

Frais d'inscription au Congrès (logement non compris) : FrS 750.-
FrS 500.- (étudiants et retraités)

Claude Bommeli

Claude BOMMELI
Présidente
de la F.I.E.R.

Marie-Laure Bachmann

Marie-Laure BACHMANN
Directrice
de l'Institut Jaques-Dalcroze

参考文献

第30回リトミック国際大会研修団『研修録』1992年

仲嶺まり子「第30回リトミック国際大会の概要について」(日本音楽教育学会・第8回九州地区例会口頭発表資料, 長崎大学) 1993年